
なんでもない日常、朝の教室

緋色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんでもない日常、朝の教室

【Nコード】

N3490L

【作者名】

緋色

【あらすじ】

少年のなんでもない日常。

（前書き）

なにを思ったのか、なんでもない日常二作目です。

春の日差し差し込む朝の教室。

僕が教室に入るとクラスメートは一人しかいなかった。

「また寝てる」

また夜更かしでもしたか。

自分の席に荷物を置きクラスメートに近づく。

持ち主がまだ来ていないのをいいことに、寝ているクラスメートの前の席を勝手に拝借し後ろを向く。

「ふむ」

起きる気配の無いクラスメートをまじまじと眺める。

茶色がかった短髪。

運動部に所属しているせいか引き締まった体。

「いいよな」

僕は女の子が欲しかった両親の希望で髪を少し伸ばしてる。

肩口まである黒髪だ。

運動も苦手なインドア派。

別に嫌いではないから少しはするけど。

「羨ましい」

体育大会では周りの視線を独り占め。

さらにサバサバした男らしい性格。

「言うことなしだ」

モテる要素満載だ。

「男だったらなあ」

クラスメートが女の子じゃなければ。

「勿体ないな」

まあ、これはこれで好きな人もいるか。

というか、ここにいるんだけど。

僕は他のクラスメートが来るまで彼女の顔を眺めていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3490/>

なんでもない日常、朝の教室

2011年10月7日01時29分発行